

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                              |           |            |
|----------------|------------------------------|-----------|------------|
| ○事業所名          | 横浜市南部地域療育センター 児童発達支援事業所 はらっぱ |           |            |
| ○保護者評価実施期間     | 令和6年 11月 11日                 | ～         | 6年 12月 13日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)                       | 48 (回答者数) | 26         |
| ○従業者評価実施期間     | 令和6年 11月 11日                 | ～         | 6年 12月 13日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)                       | 7 (回答者数)  | 7          |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年 1月 31日                  |           |            |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的にやっている取組等                                                                              | さらに充実を図るための取組等                                                                   |
|---|--------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 保護者プログラムの充実                                | 事業所職員が実施する保護者勉強会に加えて作業療法士、ソーシャルワーカーによる勉強会も設定しています。子さんの様子の共有は面談、書面でのやり取り、日々の振り返りなど様々な場面でを行っています。    | 定期的な面談以外でも、ご相談があれば随時対応させていただきます。保護者の方への周知を改めて行っています。                             |
| 2 | 活動プログラムのバリエーション                            | 年間でプログラムを作成しており、基本の形態をもとに、クラスやお子さんの状態に合わせて臨機に変化させる等の対応をしています。新規プログラムを毎年導入し、事業所内で共有し更新しながら取り組んでいます。 | プログラムを固定化させない柔軟な姿勢を継続していき、必要に応じて他職種からのアドバイスや意見も積極的に取り入れています。他事業所への見学なども検討していきます。 |
| 3 | お子さんの特性に応じた支援                              | 個々のお子さんの状態に合わせた環境設定、視覚支援、グッズの使用等を取り入れています。職員間、保護者の方とも共有して、振り返りと必要に応じて支援の見直しをしています。                 | 既存の対応に囚われず、個々のお子さんに合わせた対応を常に検討していきます。職員研修等で新たな支援や評価の視点について学び、資質向上に取り組んでいます。      |

|   | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等                                                                       | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                                                                                                             |
|---|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 設備面、人員の確保について                              | 保護者、職員アンケートにも記載がありましたが、エレベーターが無いなど建物設備の不十分さがあります。また、療育センターと別建物であるため、臨機な人員対応が難しいことがあります。 | ベビーカーの昇降など必要な時には職員が手伝う体制を取っています。急な階段のためルールを徹底して怪我がないように引き続き周知していきます。人員配置については欠員がいても維持できる体制を整えていきます。センターからのサポートについても引き続き対応していきます。 |
| 2 | 保護者同士の交流                                   | 保護者同士の交流を支援する機会が少なく、交流をコーディネートする人員、場所の確保が困難な状況です。                                       | 保護者同士の交流の場として懇談会を臨機に開催していきます。お子さんのみの登園日に保護者同士が集えるスペースの開放を検討していきます。                                                               |
| 3 | 地域の事業所との連携                                 | 療育センターとしては自立支援協議会等を通して連携をとっていますが、事業所間で直接やりとりをする機会は少ない状況です。                              | 療育センター全体の取り組みの中で事業所との連携を検討していきます。地域の会議等で得られた情報について事業所内でも共有できるように取り組んでいます。                                                        |